ジャパニーズ・グラフィティ XIX

今回の「ジャパグラ」は、昭和の数々のバラエティ番組や名曲を生み出してきた伝説のコミックバンド「ザ・ドリフターズ」による 8 曲をメドレーにしました。

1969 年放映開始の彼らを代表するテレビ番組『8 時だョ！全員集合』のオープニングを飾ったのが、《本当に本当にご苦労さん》の替え歌や、北海道の民謡「北海盆唄」の替え歌《チョットダケョ！全員集合》、かつて「海軍小唄」と

呼ばれた「ズンドコ節」をリメイクした《ドリフのズンドコ節》です。

少年聖歌隊のような衣装をもとった「少年少女合唱隊」のコーナーでは、《ドリフの早口ことば》や、東京都東村山市出身のメンバー・志村けんが歌う《志村けんの全員集合　東村山音頭》などが誕生。《盆回り》が流れる中、スタッフが大急ぎて舞台転換を行う光景も有名です。

エンディングの《いいお湯だな》の元はデューク・エイセスによる楽曲です。

そして、ソウルやファンク音楽などに造詣が深いメンバー・志村の提案により誕生した曲が数多く、《ドリフの早口ことば》はウィルソン・ピケットの「Don’t Knock My Love」の前奏を、付け髭に燕尾服姿でおなじみの《ヒゲのテーマ》はテディ・ペンダーグラスの「Do Me」のベースラインを参考にし、同番組の音楽担当によって作曲されました。

多様な音楽ジャンルの要素を織り交ぜながらも、時にコミカル、時に壮大な編曲が施され唯一無にであるこれらの曲は、ザ・ドリフターズはもとより、彼らによる数々のバラエティ番組の音楽を担当した作編曲家・たかしまあきひこの存在あってこそとも言えるでしょう。

這次的日本風情畫 19，是昭和時代的各種綜藝節目及名曲所產生出傳說中的搞笑樂團「ザ・ドリフターズ(中譯：漂流者)」出的八首混合曲。

代表 1969 年開始播放他們的節目是《八點！全員集合》，作為揭開序幕的裝飾。《本当に本当にご苦労さん》及源自北海道民謠的《チョットダケョ！全員集合》兩首都是以原曲改詞而成的作品。曾經被稱為海軍小曲的「ズンドコ節」也被翻拍成《ドリフのズンドコ節》。

與像少年聖歌隊的服裝背道而馳的「少年少女合唱隊」中的角色，產生出《ドリフの早口ことば》和在東京都東山村市出身的成員志村健先生所唱的《志村けんの全員集合　東村山音頭》等曲子。而邊播放著《盆回り》，工作人員緊急地轉換舞台的景象也是受得觀眾喜愛。

結尾的《いいお湯だな》是源自デューク・エイセス(日本聲樂團)的樂曲。

然而，有許多樂曲是由對靈魂及放克音樂等造詣之深的志村先生之提案而誕生的。《ドリフの早口ことば》是ウィルソン・ピケット的「Don’t Knock My Love」的前奏，以鬍鬚配上燕尾服的常見姿態《ヒゲのテーマ》取自テディ・ペンダーグラス的「Do Me」中的基準線做為參考，而擔任同節目中的作曲者。

多種豐富的音樂流派交織而成，時而滑稽時而壯闊的編曲，展露無遺的這些曲子，是由擔任多數綜藝節目中的音樂編曲者ザ・ドリフターズ，也許會說是像たかしまあきひ這樣般人物的存在吧！

マーチ「青空と太陽」／藤代敏裕

題名通りの爽やかな軽快なマーチです。雲一つない真っ青な空、太陽の光は暖かに、人を包み込むように。その自然の暖かさの中に生きる、幸せ感を思わせる曲です。青空と太陽と自分と……といった、「私音楽」とでも云える音楽です。

演奏する側の日常が、存分に描かれている曲です。曲全体の構成は大変解り易く、内容も捉えやすく、良い意味でこだわりのない演奏が出来ます。さっと通り過ぎて行く、といったパフォーマンスになりますので、コンクールの課題曲だからといって、深く掘り下げて何かを、といった曲ではありません。演奏者も聴衆も、爽やかな気になればOK ということでしょう。

這是一首像曲名般輕快爽朗的行進曲。在一朵雲都沒有的蔚藍天空下，太陽的光芒溫暖地照耀著人們。在那樣溫暖的自然中生存著，是一首使人感到幸福的曲子。藍天和太陽和我……就像是我的音樂。

在日常演奏的歌曲中是首十分吸引人的歌曲。曲子結構易了解，也易抓住內容，演奏者可以在不被影響之下好好的發揮。因為曲子以速度很快的方式表現，雖說是競賽曲，但並不是需要往下深掘什麼的曲子。只要演奏者與聽眾都覺得愉悅爽朗的話就沒問題了對吧。

モリコーネ・メドレー(莫利克奈組曲)

曲目解説

イタリア出身の映画音楽界の巨匠！エンニオ・モリコーネの映画音楽メドレーです。作品は「ニュー・シネア・パラダイス」(1988 年公開）と「海の上のピアニスト」(1998 年公開）の代表作 2 つ。それぞれ“映画”・“音楽”をモチーフに、主人公の少年時代からの成長と人生が描かれています。

「ニュー・シネア・パラダイス」では、小さな村で唯一の娯楽である映画館へ出入りする映画が好きでたまらない少年と映写技師との心の交流が描かれています。村を出て映画界で大成功をおさめた主人公のもとへ技師の訃報が届き、何十年かぶりに村を訪れた主人公は驚くべき遺品をもらいます。

「海の上のピアニスト」は、豪華客船の中で生まれ育ち、天才ピアノニストとして世界に名をとどろかせながらも陸に上がることを拒み、廃船となって爆破される船と運命を共にした伝説のピアニストの話。

奇しくも、それぞれの作品の舞台となった映画館・豪華客船は、どちらも消滅してしまいます。カタチあるものはいずれ消える、けれどもカタチなき作品や演奏は人々の心に残り続ける、とでも言っているかのようです。

「ニュー・シネア・パラダイス」からは《テーマ曲》、せつないメロディーの《愛のテーマ》、《初恋》の 3 曲。

「海の上のピアニスト」からは、静かな海を感じさせるような《“1900”のテーマ》、《ザ・クライシス》、一目ぼれした女性を目で追いながら弾く美しいピアノソロ曲《愛を奏でて》と《ダニーズ・ブルース》の 4 曲。映画を彩る美しいメロディーや切ない感じ、楽しい感じ、ジャジーなサウンドが散りばめられています。

曲目介紹

生於義大利的電影電視配樂界之大師！顏尼歐·莫利克奈之電影配樂組曲。其作品為「新天堂樂園」(1988 年上映）和「海上鋼琴師」(1998 年上映）兩項代表作。分別以”電影”·”音樂”為題材，描述主角從少年時代的人生成長歷程。

在「新天堂樂園」中，描述著一名少年在小村莊中的唯一娛樂的電影院中與放映師相識交心。離開城鎮後在電影界大成功的主角收到了原放映師的訃聞，相隔幾十年後再次回到村莊的主角收到了使之震驚的遺物。

「海上鋼琴師」，豪華客輪上長大的天才鋼琴家，拒絕踏上陸地最終與遭受廢棄的客輪相同命運之鋼琴家的傳說。

不可思議的是，電影院和豪華客輪作為各個作品的舞台，不論哪個都是被消滅的結局。有形的東西遲早會消失，而無形的作品和演奏卻會持續留在人們心中。

「新天堂樂園」的《主題曲》，抒情旋律的《愛之主題曲》、《初戀》三首。「海上鋼琴師」中，能感受到靜謐之海般的《“1900”的主題曲》、《The Crisis》，以及對一見鍾情的女性邊尋找其身影邊彈奏出美麗的鋼琴獨奏曲《Playing Love》和《 Danese *Blues*》4 首。增添了電影色彩的美麗旋律和悲喜交織的感受，爵士般的聲響散入其中。

空と大地の間で

僕らはこの空と大地の間で生まれ、育ってきました
大地には美しい花が咲き、風は季節の香りを届け、青い空には豊かな雲をたたえ、太陽は生命の緑を育てます
このような様々な自然の恩恵を受け、僕たちはともに笑い、ともに泣き、ともに心を通い合わせ、かけがえのない今を生きています
この同じ時代に同じ場所に共に生き、音楽を通した活動をしている私たち
この美しい星が人々の豊かな愛で包まれ、いつまでも美しく輝いていますように
人が音楽と共にある環境がいつまでも続きますように

在天空與大地之間
我們生長於這天空與大地之間
美麗的花兒盛開在大地間
風兒傳送著季節的香味
湛藍的天空讚頌著多樣的雲朵
太陽孕育著生命的綠
我們受到各式各樣的自然恩惠
而一同歡笑一同哭泣
一同用相互來往的心
活在不可替代的現在
和這個時代共生
通過音樂活動的我們
就像被美麗的星星用愛包覆在其中
永遠綻放著美麗的光芒
人們和音樂的交流不論何時都會持續下去

Arsenal（行進曲）

コンサートマーチ『アーセナル』（Concert March ″″, とも）は、ベルギーの作曲家 ヤン・ヴァン・デル・ローストが作曲した、吹奏楽編成の行進曲である

ベルギーで最初に鉄道が開通したメヘレンを本拠地とする鉄道工場吹奏楽団の委嘱で、創立 50 周年を記念して 1995 年に作曲された。

曲は、1990 年に作曲されたこの作曲家のコンテスト・マーチ「マーキュリー」と同様に、イギリス風の格調高い式典行進曲を意識して書かれており、行進を目的としたものではなく、曲調はタイトル通り「コンサートマーチ」となっている。日本においても、コンサートのオープニングやアンコールピースとしての演奏機会も多い。

出版にあたってファンファーレバンド版、ブラスバンド版も作られた。また、の編曲によるサクソフォーン・クワイア版とマールテン・イェンセ（Maarten Jense）の編曲によるクラリネット・クワイア版も出版されている。

音樂會進行曲『**アーセナル**』(Concert March "Arsenal"也作『アルセナール』)，是比利時的作曲家 Jan Frans Joseph *Van* der Roost 所作，由管樂組成的進行曲。

比利時第一條鐵路通車的梅赫倫，作為總部因為鐵路工廠管樂團(Harmonie van het Spoorwegarsenaal)的囑託，在 1995 年為了紀念創立五十周年而作此曲。

這首曲子與此作曲家在 1990 年所創的競賽進行曲「マーキュリー（Mercury)」相同，不是把遊行作為目的而是以英國風高貴的儀式進行曲來寫道。曲調與標題「音樂會進行曲」相呼應。在日本，作為開場及安可曲的演奏場合也十分常見。

出版已有銅管樂隊、英國銅管樂隊版、柏原卓之編曲的薩克斯風合唱版、以及マールテン・イェンセ(Maarten Jense)所編的單簧管合唱版也都已出版。

マゼラン

大航海時代、世界一周の偉業を成し遂げたマゼラン一行ですが、マゼラン本人は航海中に死んでしまいます。歴史に「if」はありませんが「もしマゼランの魂が現世に残り、世界一周を続けたなら・・・」と“未知なる”マゼランの航海をイメージして作りあげました。

地球一周航海途中、死を迎えたマゼランの魂はそれだけを求め、世界中を駆け巡ります。そこには今までに見た事のない世界が彼を待ち受けます。幾多の未知なる大地、未知なる海・・・それらの世界に触れ続けたマゼランの魂はやがて地球全てを制覇するのです。

この曲には、自然という大きな力に人間という矮小なものが挑む姿が描かれています。悠然と広がる海の大きさ、あたたかさ、強さ、狂暴さ、恐ろしさなどさまざまな姿が表出されると共に、マゼランの自己の信念に基づき真実を追い求める姿が表現されています。

尚、レンタルにあたり打楽器のリズム等少々録音とは異なる部分がありますが、これは校正時に「こうした方が良いのではないか」と思い変更いたしました。ご了承下さい。

在大航海時代，麥哲倫一行雖完成繞行世界一周的豐功偉業，麥哲倫卻在航行途中身亡。在歷史裡雖沒有「if」但「若麥哲倫之魂還在世、如果繼續繞行世界一周的話、、、、、、」這段象徵著〝未知的〞麥哲倫之航海而被記載著。

航行地球一周途中，迎接死亡的麥哲倫之魂只求能在世界上周繞著。在那裡，他期盼著至今未曾見過的世界。不論是未知的大地、還是未知的大海、、、、、、那些持續與世界碰觸的麥哲倫之魂將稱霸全球。

這首曲子描繪著挑戰大自然力量的人類是多麼的渺小。沉靜遼闊的大海，其面積、深度、強度、狂暴以及畏懼等等，表現出各式各樣的姿態之餘，也展現出麥哲倫憑藉著自己的信念追求真實之樣貌。

另外，依承租不同打擊樂器的節奏稍稍與錄音有少部分差異，這是在校正時覺得「這樣比較好」而有所變更，還請見諒。

（樽屋雅徳）